

仙台大学 広報室

Monthly Report

ボブスレーの黒岩俊喜選手(運動栄養学科2年)が
ソチ冬季五輪出場決定—スケルトンのOG小室希
選手(仙台大職)も2大会連続出場を決める



ボブスレーの黒岩俊喜選手



スケルトンの小室希選手

1月18日(土)、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の黒岩俊喜選手(運動栄養学科2年—神奈川・橘高校出)が、2月7日に開幕されるソチ冬季五輪ボブスレー日本代表のブレイカー(押し役)に決定しました。

また、1月20日(月)、全日本スケルトン選手権で5連覇を達成したOG小室希選手(仙台大職/平成23年仙台大学大学院修了—平成20年体育学科卒—宮城・白石女子高校出)が2大会連続で冬季五輪出場を決め、スケルトンのOB笹原友希選手(システックス/平成19年運動栄養学科卒—秋田中央高校出)も見事初出場を決めました。

本学関係者では他に、ボブスレーのOB鈴木寛選手(北野建設/平成8年体育学科卒—北海道・室蘭大谷高校出)がパイロットとして、5度目の冬季五輪出場。スケルトンのOB高橋弘篤選手(システックス/平成19年体育学科卒—宮城・富谷高校出)が初選出で冬季五輪出場を既に決めていました。

ソチ冬季五輪での本学関係者5名への熱い応援を宜しくお願い致します。

※仙台大学関係者ソチ冬季五輪出場選手及び役員の紹介は2面に掲載。

< 目 次 >

ソチ冬季五輪に本学関係者5名が決定	1
仙台大学「管理栄養士合格修練会」	5
東北楽天ゴールデンイーグルスの新人選手が本学で体力測定を実施	5
河北文化賞受章—本学OB「車いすバスケットボール宮城MAX」の岩佐義明監督が来訪	6
仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(1)~(3)	8
学生の競技結果等	11

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台大学関係者 ソチ冬季五輪出場選手及び役員の紹介

ボブスレー



黒岩 俊喜 Toshiki Kuroiwa ※五輪初出場

仙台大学体育学部運動栄養学科2年
生年月日:1993年8月31日(20歳) 出身地:神奈川県

- ・ノースアメリカズカップ最終日(第8戦) ボブスレー4人乗り 優勝
- ・2013年ワールドカップ第3戦 ボブスレー4人乗り 19位

ボブスレー



鈴木 寛 Hiroshi Suzuki ※5度目の五輪出場

北野建設(株)／平成8年仙台大学卒
生年月日:1973年12月13日(40歳) 出身地:北海道

- ・ノースアメリカズカップ最終日(第8戦) ボブスレー4人乗り 優勝
- ・2013年ワールドカップ第3戦 ボブスレー4人乗り 19位
- ・全日本ボブスレー選手権 ボブスレー2人乗り 12連覇

スケルトン



小室 希 Nozomi Komuro ※2大会連続五輪出場

仙台大学職員／平成23年仙台大学大学院修了—平成20年仙台大学卒
—宮城県白石女子高校出
生年月日:1985年5月29日(28歳) 出身地:宮城県村田町

- ・2010年バンクーバー冬季五輪日本代表
- ・全日本スケルトン選手権 5連覇

スケルトン



高橋 弘篤 Hiroatsu Takahashi ※五輪初出場

(株)システックス／平成19年仙台大学卒—宮城県富谷高校出
生年月日:1984年4月13日(29歳) 出身地:宮城県富谷町

- ・2014年1月3日、ドイツのウインターベルク大会(W杯第4戦)では自己記録を更新する 8位

スケルトン



笹原 友希 Yuki Sasahara ※五輪初出場

(株)システックス／平成19年仙台大学卒
生年月日:1984年4月11日(29歳) 出身地:秋田県

- ・2014年1月27日、ドイツのケーニヒスゼー大会(W杯第8戦)では自己ベストを更新する 9位

【役員】

- 鈴木省三(ボブスレー・リュージュ・スケルトンチームリーダー／仙台大学教授・
仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部監督／昭和60年仙台大学卒)
- 越 和宏(男子スケルトン監督／(株)システックス／昭和63年仙台大学卒)
- 野澤悠樹(女子スケルトンコーチ／山形県警／平成11年仙台大学卒)

ソチ冬季五輪共同記者会見及び壮行会を開催— 黒岩選手と小室選手がソチでの健闘を誓う



共同記者会見で両手を力強く握り合わせる（左から）朴澤学長、黒岩選手、小室選手、鈴木教授＝仙台大学



大歓声の中迎えられた壮行会
＝写真提供：河北新報船岡販売所(有)オアシス



三浦秀一宮城県副知事（中央）表敬訪問の様子（右端：宮城県ボブスレー・リュージュ連盟の鈴木孝夫理事長）＝宮城県庁

1月30日（木）、本学で、ソチ冬季五輪ボブスレー日本代表の黒岩俊喜選手（運動栄養学科2年一神奈川・橋高校出）と同スケルトン日本代表のOG小室希選手（仙台大職／H22年仙台大学大学院修了－H19年体育学科卒－宮城・白石女子高校出）の共同記者会見及び壮行会が行われました。

共同記者会見には、仙台大学の朴澤泰治学長とソチ冬季五輪ボブスレー・リュージュ・スケルトンのチームリーダーとして帯同する、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部監督の鈴木省三教授も同席。報道関係者14社が来訪下さいました。

五輪初出場の黒岩選手は「日本チームのボブスレー4人乗りは、長野五輪の時の15位が最高順位。それを超えること、1ケタ入賞することが目標」と力強く語り、一方、2大会連続出場の小室選手は「今まで支えて下さった方々に私の姿を見て頂き、滑り切ることが最大の恩返し。自分の力を最大限発揮して、最高の滑りがしたい」と内なる闘志を燃やしました。

共同記者会見終了後は、オリンピックで戦う黒岩・小室両選手を励ますために、引き続き壮行会を開催。来賓として、現在、黒岩選手が在住する柴田町の滝口茂町長、小室選手の出身地である村田町の佐藤英雄町長、宮城県ボブスレー・リュージュ連盟の大沼迪義会長らも激励に駆け付けて下さり、集まった約300名余りの学生たちと共に熱いエールが送られました。

壮行会終了後、黒岩・小室両選手は宮城県庁を訪れ、三浦秀一副知事に、被災地からソチ冬季五輪に出場する強い思いを伝えました。

黒岩選手と鈴木教授は1月31日（金）、ボブスレーチームらと共に成田を出発し、2月1日（土）にソチ入り。小室選手は2月2日（日）にスケルトンチームと成田を出発、2月3日（月）にソチ入りします。

なお、ソチ冬季五輪の女子スケルトンは2月13日（木）・14日（金）、男子ボブスレー4人乗りは2月23日（日）に行われます。黒岩・小室両選手の活躍にぜひご注目下さい。

ソチ冬季五輪共同記者会見及び壮行会の模様【動画】（4分10秒）が本学ホームページでご覧頂けます。

※動画制作：スポーツ情報マスメディア学科
映像アカデミー参加学生

来春仙台大学大学院生になる留学生のための (一財)東北多文化アカデミー主催による日本語教室卒業式



卒業式に参加した方々と卒業生

昨年10月1日（水）に（一財）東北多文化アカデミーに入学した来年度本学大学院生になる留学生が年の瀬も近づく12月26日（金）に卒業式を迎えました。卒業式には朴澤学長も参席し、留学生の成長を温かく見守る形で式が進められました。入学前とは違った、落ち着いた表情で留学生たちはそれぞれが成長したことを感じる内容でした。

（一財）東北多文化アカデミーにおいて3か月間行ってきた日本語の勉強の成果を発表する機会でもあり、留学生たちは緊張した面持ちでした。しかし、いざとなると堂々とした発表をし、今後の活躍が期待できるものでした。発表では、以前よりもすらすらと日本語を話している姿を見て、個々に努力してきた姿が目に見えます。今後の予定としては、春の入学式まで本学内で日本語の能力を更にレベルアップとともに、身に着けた日本語を今後の大学生活に活かしてもらいたいと願うものです。

<報告：学生支援室 石栗はるか>



修了証書と共に

避難訓練を実施しました



仕事納めである12月27日（金）柴田町消防署の協力の下、消防訓練を実施しました。今回の訓練は学生食堂から火の手が上がったという想定で、約70人の教職員が参加しました。

実際に119番への通報後、本番さながらに火災消火班や避難誘導班、情報連絡班がそれぞれの持ち場である火元や守衛室に駆けつけ、その他の教職員は速やかに噴水前に避難しました。消火する際に大事なポイントは、最初に自分の逃げ道を確保することだそうです。消防設備の保守を依頼しているホーチキの支援をいただき、消火器と消火設備取扱いの説明がなされ、火災消火班数名が放水を体験しました。

最後に消防署員から通報する際の注意点などをお聞きして終了となりました。

火災を起こさないことが1番ですけれど、万が一起きてしまった際に初期消火の徹底と迅速な避難誘導をするためには、日ごろからこういった訓練を積み重ね、いざという時に慌てない心構えが求められます。

仙台大学「管理栄養士合格修練会」 —第5回国家試験直前対策合宿講座を開催



合格を誓う管理栄養士合格修練会＝仙台大学F303教室
左から西川・堀江の各新助手、早川准教授、真木・佐藤・千葉の各新助手

1月12日（日）～13日（月・祝）の1泊2日、本学35記念館F303教室で、管理栄養士合格修練会主催＜主管：早川公康准教授、塾長兼事務局長：真木瑛新助手（企画・運営・実施をサポート）＞による「第5回国家試験直前対策合宿講座」が開催され、3月の受験直前の総仕上げが行なわれました。管理栄養士合格修練会は、管理栄養士国家試験合格を目指す本学卒業生の学習を支援する会です。

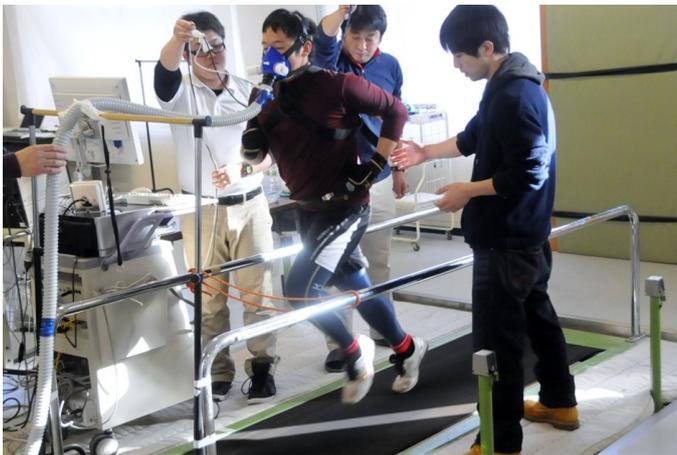
今回は、本学運動栄養学科卒の本学新助手4名が参加し、念願の管理栄養士国家資格合格を目指し、深夜に及ぶ必死の猛勉強を行ないました。

「自分にとって最後のチャンスだと肝に銘じて頑張りたい」（堀江知世新助手）、「3度目はないと思っている。最後まで諦めない気持ちで頑張りたい」（佐藤幸子新助手）、「試験終了の一秒まで粘り強く取組み、絶対合格を勝ち取りたい」（西川里美新助手）、「精一杯自分の力を出し切ったと思えるところまで準備を行ないたい」（千葉慎太郎新助手）とそれぞれ試験に向けての意気込みを語りました。

同会第5代塾長兼事務局長の真木新助手は、自分自身の合格経験を振り返りながら「勝負の残り2か月。これまでやってきたことを確実に得点につなげてほしい。4名全員の合格を祈っています」と話し、同会主管の早川准教授は「運動栄養学科にとって頼もしい4名です。自分らしく最後まで頑張ってもらい、晴れて栄冠を手にしてほしいと思います」とエールを送りました。

なお、本年度の管理栄養士国家試験は3月23日（日）、合格発表は5月9日（金）に行われる予定です。

東北楽天ゴールデンイーグルスの新人選手が本学で体力測定を実施



最大酸素摂取量を測定する松井裕樹投手
＝仙台大学スポーツ生理学実験室

1月15日（水）、昨年10月のドラフト会議を経て、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの2014年度入団新人となった9選手（松井裕樹投手・内田靖人捕手・濱矢広大投手・古川侑利投手・西宮悠介投手・横山貴明投手・相原和友投手・相沢晋投手・今野龍太投手）が本学を訪れ、身長・体重、体脂肪の基礎測定及び最大酸素摂取量（全身持久力の指標）、脚筋力の測定を行ないました。

本学で楽天の新人合同自主トレーニングの体力測定が行なわれるのは4回目。選手の体力やコンディショニングを詳しく把握する狙いがあります。

ドラフト1位の松井投手は「専門機器を使用した体力測定は初めて。かなりきつかったが、プロは体が資本。素晴らしい施設が整っているのので、今後も十分に活用させて頂き、自分の成長につなげていきたい」と話しました。

今回の体力測定では、本学の高橋弘彦教授、内丸仁・竹村英和の各准教授、小田桂吾講師が測定指導を行ない、本学の学生6名が測定補助を行ないました。最大酸素摂取量と脚筋力の測定補助を行なったアスレ

モリやましようた
ティックトレーナー部の森山翔太さん（体育学科3年一長野・松商学園高校出）は、「機器の使い方や明確な説明の仕方を勉強することができた。プロ野球選手の力強い動きを身近で見ることができ、測定補助にも関わることができ、非常に良い刺激を受けた。今後のトレーナー活動に生かしていきたい」と意欲的に話しました。

「DAN DAN DANCE & SPORTS 10th」が成功裏に幕



仙台大学女子体操競技部によるダンスパフォーマンス
=えぞこホール(宮城県大河原町)

1月25日(土)、えぞこホール(仙南芸術文化センター)で、今年度に10回目を迎えたダンスイベント「DAN DAN DANCE & SPORTS」(主催:仙台大学・DAN DAN DANCE & SPORTS実行委員会)が開催され、約300名の方々が来場されました。

同ダンスイベントの冒頭では、本学の朴澤学長が「ダンスは体育系大学の重要なテーマの一つ」と挨拶。引き続き、昨年同様、宮城県気仙沼市から参加した「なんでもエンジョイ面瀬クラブ」の子ども達によるかわいらしい演技を皮切りに、老若男女・障害の有無を問わないダンサーたち25組の力強く華麗なパフォーマンスが繰り広げられました。

仙台大学からは、男女新体操競技部・男女体操競技部・ブレイキン同好会ほか多数の団体が出演。仙台高校・東北生活文化大学高校の両ダンス部による若さ溢れるエネルギッシュなダンスも披露され、盛り上がりを見せました。

最終演技には、(株)ジールワールドワイドのダンサーがゲスト出演してくださり、プロの引き込まれるような迫力ある演技で会場を魅了しました。「DAN DAN DANCE & SPORTS 10th」は成功裏に幕を閉じ、会場からは盛んに大きな拍手が送られました。

なお、「DAN DAN DANCE & SPORTS」は、毎年1回開催されております。

(※来年度は、2016年1月24日(土)に開催予定です。ダンスに興味関心のある方は、ぜひご来場・ご参加ください。)



河北文化賞受賞—

本学OB「車いすバスケットボール宮城MAX」の岩佐義明監督が来訪



河北文化賞の賞状を手にするOB岩佐監督(中央)と同賞の楯を携える朴澤学長及び大学関係者=学長室

1月29日(木)、車いすバスケットボールの日本選手権6連覇の偉業が称えられ、「第63回河北文化賞」(河北文化事業団が東北の学術、芸術、体育、産業、社会活動の各部門で顕著な業績を挙げ、東北の発展のために尽力した個人、団体を顕彰する賞)を受賞された宮城MAX(マックス)の本学OB岩佐義明監督が学長室を訪れ

ました。

朴澤学長・阿部副学長・仙台大学同窓会の鈴木会長及び仙台大学同窓会の大河原事務局次長から岩佐監督へ称賛の言葉が述べられました。

栄えある河北文化賞受賞の功績を称え、岩佐監督に対し、朴澤学長から記念品が、仙台大学同窓会の鈴木会長から褒奨金が贈られ、岩佐監督から感謝の言葉が述べられました。

岩佐監督は「仙台大学でバスケットボールのみならず、スポーツ科学を学んだことが私の原点。創意工夫と実学の精神で苦難を乗り越えてきた。河北文化賞に恥じないように、これからも精進していきたい」と本学での学びが今に生きていることなどを話され、「日本選手権6連覇を達成し、今年11月に北九州市で行なわれるクラブチーム世界一決定戦で優勝したい」と更なる飛躍を誓っていました。

なお、岩佐監督は、北京パラリンピックとロンドンパラリンピックにおいて、車いすバスケットボール日本代表チームのヘッドコーチを務めるなど第一線で活躍している監督です。

ラジオ3の公開生放送に 女子サッカー部黒澤 尚監督が出演



1月31日（金）E-BeanS 社のサテスタ広場において、ラジオ3（FM76.2MHZ）の公開収録番組「らじすぽ仙台」に女子サッカー部監の黒澤 尚監督が生出演しました。

同番組はベガルタ、楽天89ERS、ベルフィーユの選手やスタッフなどスポーツ関係者が毎週生出演する番組で、ベガルタ仙台スタジアムDJの大坂ともお氏がパーソナリティを務めています。

番組冒頭には、仙台大学の紹介と共に、2014ソチ冬季五輪に出場する本学の黒岩俊喜選手（運動栄養学科2年）や小室希選手（新助手）をはじめ本学OBを含め5名の選手が出場し3名の役員が派遣されることなど紹介がされました。

続いてゲストである黒澤監督の紹介がなされ、本学女子サッカー部の紹介やこれまでの黒澤監督の経歴（ソニー仙台GKとした活躍後、JFAナショナルトレセンコーチ・ユニバーシアード日本女子代表GKコーチ）などの経験談などがユーモアを交え柔らかなトークで語られました。黒澤監督が指導者として大切にしていることは何かとの質問に対しては、「教える難しさを感じつつも、サッカープレーの上達のための指導だけではなく、プレー以外の部分としての教育「人間教育」が指導の大きなウェイトをもつと思う。」と話していたことが印象的でした。

収録会場には女子サッカー部の学生達も会場に駆けつけており、黒澤監督のトークに笑顔を見せる様子もありました。



収録後には観覧者へのプレゼント贈呈

<同窓生関連情報>

前宮城県鬼首小学校校長のOB村石好男先生（昭和56年体育学科卒）より、朴澤学長宛てに右記のようなお年賀を頂戴致しましたので、ご紹介させていただきます。

謹賀新年
 渡伯して九か月が経ちました。益々の発展に伺ひ、当地での仕事や生活にもだいふ慣れ、元気に過ごしています。

この度の赴任に際し、皆様には大変お世話になり、ありがとうございます。限られた日々を大切に、世界に点在する在外教育施設の中で「ひとときわかがやく サンパウロ日本人学校」を目指し、任期を全うしてまいります。どうぞお元気で。またお会いできる日を楽しみに。

二〇一四年一月
 村石 好男 ・ 美智子（昨年度末退職）

ホテルオニキウベを含め地区の利権を大学まで
 のまいたにければ幸いです。朴澤学長の
 益々の発展に伺ひ、

Alameda Lorena, 75 Apto. 42 - Jardim Paulista - Sao Paulo - SP - Brasil CEP 01424-00

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(1) 「ダートフィッシュ」・「スポーツコード」



ダートフィッシュの「ストロモーション」の編集

(1) 「ダートフィッシュ」・「スポーツコード」とはスポーツの現場において、映像が有効に活用されてきています。本学では、映像による競技力向上支援ソフトを2種類有しています。

一つは「ダートフィッシュ」。これは、動作分析によるコーチング支援およびデータ分析ソフトです。画像を重ねて詳細に比較できる「サイマルカム」、動きの軌跡を分析できる「ストロモーション」、情報を分析する「アナライザー」、情報を伝達する「インジアクション」、映像・情報データベース化ができる「タギング」機能を搭載。最近では、スポーツ界のみならず、医療・リハビリテーションをはじめ、教育、調査・研究、放送などの幅広い分野で活用されています。

もう一つは「スポーツコード」。これは、ビデオ映像を最大限に活用するためのビデオ分析ソフトです。試合を撮影しているカメラとPCを接続すれば、ライブでデータを入力できる「ライブコーディング」、ボタン操作だけでビデオ映像を分類、データ化できる「コードウィンドウ」、見たいプレーだけを編集、再生して見ることができる「タイムライン」、複数方向からの映像のリンクと分析ができる「ムービースタック」などの機能が搭載されています。

近年の競技スポーツにおいては、情報戦略が勝敗に重要な要素となってきており、多くの研究者や競技者が“勝つために”上記機器を利用しています。これらの機器をいかに使いこなすかというインテリジェンスの部分が急務になっています。

DA
RT
FI
SH
・
SP
OR
TS
CO
DE
による動作分析



(2) 「ダートフィッシュ」・「スポーツコード」を用いた仙台大学の実践例

本学スポーツ情報マスメディア学科では、スポーツにおける情報の戦略的な取扱いや分析ソフトを使用した収集分析加工方法を身に付けた人材の育成を目的とした教育が行われています。スポーツ情報戦略活動を体験的に学ぶ演習（「スポーツ情報戦略論演習」）の中では「ダートフィッシュ」と「スポーツコード」を取り上げ、これらを実際使用しながら、最先端の技術力を身に付けられるような演習活動となっています。

「ダートフィッシュ」は、スポーツ指導者やアナリスト志望の学生がスポーツ動作の分析に用いて「卒業論文」を作成するなど、幅広く活用されています。また、本学スポーツ健康科学研究実践機構の受託事業である「スポーツタレント発掘事業」（子どもたちの体力向上、地域の発展に資するスポーツ選手の育成や次世代のトップアスリートを養成することを目的とした事業）の「YAMAGATAドリームキッズ」や「AKITAスーパーわか杉っ子」においても「ダートフィッシュ」を活用したプログラム提供が行なわれています。

「スポーツコード」は、本学男子ハンドボール部が、対戦相手の動きやシュートコース、フォーメーションなどを予め分析し、勝利する可能性を高くするために活用しています。「平成25年度東北学生ハンドボール春季リーグ」においては、2部から1部に昇格した要因の一つにもなりました。また、社会人ハンドボールの強豪・トヨタ自動車東日本男子ハンドボール部において、吉田洋志さん（仙台大学大学院1年—平成25年体育学科卒—福島・尚志高校出）が「スポーツコード」を用いて、競技力向上に向けた強化活動に対する情報面からのサポート支援活動を行なっています。

(3) 藤本晋也講師に聞く、課題と今後の展望—仙台大学の場合

競技スポーツシーンでの映像活用について、近年のICT環境の急激な変化に伴い、今後も多様な場面において活用されていくことが想像されますが、これらのソフトはあくまで分析支援ソフトです。分析を行うのは人であり、実際の現場に則した、分析するための映像を撮影し加工・編集するためには、分析の観点や視点である“何を見るのか”が重要なポイントとなります。今後は、競技現場での映像の利活用に関する研究や、多様なスポーツシーンへの実践的活用について研究を進める予定です。

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(2) 「動物環境制御低酸素室」



動物環境制御低酸素室



動物環境制御低酸素室内



左: 動物環境制御低酸素システムGas分析システム
右: 動物環境制御低酸素システム制御盤・電源盤

(1) 動物環境制御低酸素室とは

標高の高い低酸素環境下においては、高脂血症や心疾患の患者が少なく長寿が多いことが知られており、低酸素環境が健康に及ぼす効果の研究がなされています。本学では、平地においても低酸素環境を再現できる、動物環境制御低酸素室を備えています。

高地の場合、標高が高くなると同時に大気圧が低くなることで酸素の量も減っていきませんが、本学の低酸素室は「常圧式」で大気圧が変化しないという特徴があります。酸素濃度自体を低くすることで酸素の量を高所と同じように低く設定することができます。入室前には血中酸素濃度を測り、体調の悪い人は入室をさせないようにしますが、実験中にもしものことがあった場合でも、常圧式であれば部屋の出入りがしやすく安全性に優れています。

室内環境は、酸素濃度別に設定可能で、酸素濃度別の効果を比較検討することができます。また明暗時間を任意に設定できることから、実験者のスケジュールに合わせた動物実験プロトコルを実施することができます。

(2) 動物環境制御低酸素室を用いた 仙台大学の実践例

低酸素環境下による酸素分圧の低下は、生体に一時的な低酸素状態を引き起こします。この低酸素環境において、体内環境を一定に保とうとする反応が高所順応です。血液では腎臓からのエリスロポエチンの生成分泌が増加し、血液中の赤血球数とヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値が増加することで、酸素運搬能力が向上するという報告があります。また筋肉では、酸化能力の高い筋線維が有意に増加するという報告があります。

本学は、日中共同の研究プロジェクトを実施しており、異なる低酸素濃度がラットの血液、筋肉に及ぼす影響に着目し、低酸素環境による肥満などの生活習慣病への予防改善効果を研究しています。現在、実験ではラットを高度0m、2200m、3500mに相当する酸素濃度に6週間滞在させ、さらにその期間、運動をさせる群・させない群に分けて飼育しています。飼育終了時の体重、腹腔内脂肪量、血液性状、筋組成を測定し、低酸素環境やそこで行う運動の効果を比較検討しています。

(3) 藤井久雄教授に聞く、 課題と今後の展望—仙台大学の場合

運動実験で得られた基礎データをいかにヒトへ応用するかが重要です。

仙台大学で測定した動物低酸素実験のデータを基に、中国・青海省体育科学研究所側（3月18日馬所長が来学予定）の低酸素ヒト実験のデータとの擦り合わせを行ない、健康増進等の改善に役立てる研究の方向性について協議する予定です。

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(3)「高圧高酸素室」



高圧高酸素室=仙台大学専門研究棟(C棟)3階

(1) 「高圧高酸素室」の概要

従来、疲労回復の手段としては、睡眠やサプリメントの摂取、入浴、マッサージなどが取り入れられてきました。しかし近年、高圧高酸素室（高酸素カプセル）に滞在することにより、疲労回復やスポーツ障害からの回復に効果があるとされており、スポーツ選手を中心に広く活用され始めています。

本学では、高圧高酸素室を平成20年3月に2台設置しました。

本学に設置した高圧高酸素室では、大気を送り込むことによって室内を加圧するとともに、1分間に約10リットルの濃縮酸素（高酸素気）を流すことによって高圧高酸素環境を作り出します。

気圧は1.3気圧（水深3mに潜水した際に受ける圧力と同等）、酸素濃度は約30%（通常20.9%）まで高めることができ、自然環境にはない環境を人工的に創り出すことができます。

(2) 常圧高酸素室との違い

常圧高酸素室は、気圧を変化させずに通常大気圧の状態、高酸素気を室内に送り込んでいます。高圧高酸素室についても、常圧高酸素室と同様に高酸素気を室内に送り込んでいますが、同時に室内の気圧を高めています。そのため、同じ酸素濃度でも滞在環境が異なり、生理的応答も異なると言われてます。

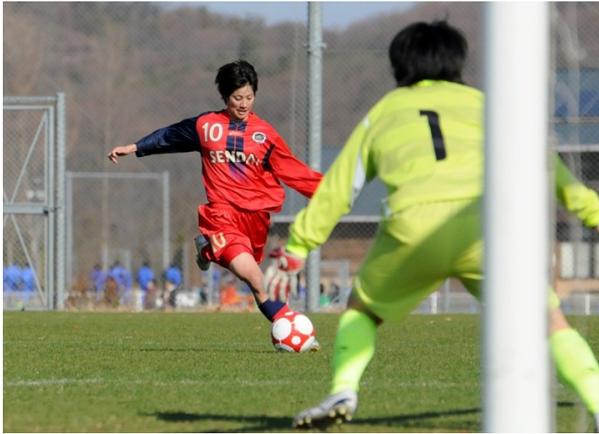
(3) 「高圧高酸素室」を用いた仙台大学の実践例

運動後の筋痛・筋疲労からの回復に対する効果について検証しています。また、陸上競技や競泳などのように、1日に数回のレースを行うことを想定し、繰り返し行う運動間の休息時に高圧高酸素室に入ることによって、パフォーマンスの低下を抑制できるかなどを研究しています。さらに、卒業論文の作成を通して、学生が高圧高酸素室を用いた疲労回復効果を検証しており、スポーツにおける疲労回復やコンディショニングに関する理論と実践を学んでいます。

(4) 竹村英和准教授に聞く、課題と今後の展望—仙台大学の場合

近年、いわゆる高酸素カプセル（1.3気圧程度の高圧酸素環境）に滞在することにより、怪我や疲労回復等に効果があるとされていますが、十分な科学的根拠が得られていないのが現状です。今後、これらの効果について検証を進めるとともに、スポーツ選手のコンディショニングへの応用について研究を進める予定です。

女子サッカー部、インカレ初戦敗退—全国の壁厚く



積極的なプレーを見せたFW須永(10)(上)とFW山下(23)(下)
＝兵庫県立三木総合防災公園第1球技場

12月25日(水)、兵庫県立三木総合防災公園第1球技場(兵庫県三木市)で「平成25年度第22回全日本女子サッカー選手権大会(インカレ)」1回戦が行なわれました。4年連続出場の本学女子サッカー部(東北第1代表)は、姫路獨協大学(関西第3代表)に0-4(前半0-2、後半0-2)で敗れ、全国の壁の厚さを改めて思い知らされました。

すながまなみ

後半途中出場のFW須永愛海(体育学科1年一

やました

JFAアカデミー福島出)とFW山下あかり(体育学科1年一宮城・常盤木学園高校出)が、躍動感あふれる積極的な仕掛けで相手ゴールに迫り、幾度か好機を作りましたが、残念ながら、ゴールは奪えませんでした。

試合終了後、本学女子サッカー部の黒澤尚監督は「予想以上の完敗。この屈辱をバネに、一からチームを立て直したい。来年こそインカレベスト4進出を果たしたい」と悔しさをにじませながら話しました。

今後に期待できるプレーを随所に見せた仙台大学女子サッカー部。引き続き、温かいご声援を宜しくお願い致します。

FLOORBALL部、インカレ男女アベック準優勝



仙台大学 FLOORBALL 部は、12月21日(土)・22日(日)に埼玉県の駿河台大学で行われた「第3回日本学生フロアボール選手権大会」で、男女ともに準優勝という結果を残しました。

創部5年目にして公式大会では初の決勝進出という大健闘を成し遂げた男子でしたが、前大会王者の国士舘大学に激闘の試合をするも0-3で敗れました。前大会で見事優勝し連覇を狙う女子は、白熱する試合を繰り広げましたが、惜しくも1-2で敗れてしまいました。目標であった2連覇を逃した悔しさを込め、女子キャプテン

さとうしおり

の佐藤詩織(健康福祉学科3年一宮城・築館高校出)は、閉会式で「来年必ず優勝トロフィーを取り返します!」と全ての大学の前で宣言。男女共に次年度に向けて前進をはじめた仙台大学の今後の活動に期待が高

はたうちかづき

まります。また、会場には創部者である畑内一輝さん(平成24年健康福祉学科卒一青森・八戸東高校出)をはじめ、沢山の卒業生が応援に駆けつけてくれました。畑内さんは「インカレという舞台で男女共に決勝の舞台に立つ姿を見れたことが何より嬉しいし、とても誇りに思う。現役生とは一緒にやってきたこともあって尚更嬉しい。この部を創って本当によかった」と語ってくれました。

今大会は、必死で応援し、いつも見守る卒業生の先輩方がいて下さる事が大きな力となり、創部から積み上げてきたものが今回の結果へと実を結んだと思います。

応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。引き続き仙台大学 FLOORBALL 部へのご声援を宜しくお願い致します。

すずきゆうた

<報告: 仙台大学男子 FLOORBALL 部 主将 鈴木雄太
(体育学科4年一福島工業高校出)

男子サッカー部 菅井ツインズ(兄・拓也、弟・慎也)が JFLヴァンラーレ八戸FCに入団内定



左:菅井拓也、右:菅井慎也
=仙台大学サッカー・ラグビー場

仙台大学男子サッカー部主将の菅井拓也(健康福祉学科4年すがいたくや一宮城・聖和学園高校出)と副主将の菅井慎也(体育学科4年すがいしんや一宮城・聖和学園高校出)が、2014シーズンからのJFLヴァンラーレ八戸FCへの入団が内定しました。菅井拓也(兄)と慎也(弟)は双子の兄弟。中学はベガルタ仙台ユース、高校は宮城・聖和学園高校、そして大学は仙台大学と同じ道を歩んできました。菅井ツインズは、本学サッカー部1年時に総理大臣杯3位、13年連続インカレ出場に大きく貢献しました。

ヴァンラーレ八戸に入団するにあたり、兄の拓也は「大学サッカーはかけがえのない時間だった。この経験をヴァンラーレでも活かして、1年目からレギュラー定着を目指す」と力強く語り、一方、弟の慎也は「怪我で大学3年時に1年間リハビリに専念し、辛い時期もあった。周りで支えてくれた方々のお陰で4年間やり通すことができた。ヴァンラーレで活躍して、最高の恩返しをしたい」と意気込みを語りました。

引き続き、菅井ツインズへの温かなご声援を宜しくお願い致します。